



真剣な表情で入学式に臨む新入生。8日、野辺地町

最後の新生 特別な一年 27年度五戸に移転 八学野西高

八戸学院野辺地西高は8日、野辺地町の同校で入学式を行った。2027年度から五戸町に学校が移転し、八戸学院ひばり野西高に名称変更されるため、本年度入学した男子60人が八学野西高としては最後の新生となる。決意を新たに高校生活をスタートさせた。

体育館で行われた式では、教職員や保護者らが見守る中、新入生が入場。新入生代表の一戸終斗さん(五所川原一中卒)が「良き生徒として夢と希望に向かって努力することを誓う」と宣誓した。

続いて、橋場保人校長が「みなさんはこの学びやで過ごす最後の新生となる。この特別な一年を大切にいただき、かけがえない学生生活を送ってほしい」と式辞。

同校を運営する学校法人光星学院(八戸市)の法官新一理事長は「卒業時は、ひばり野西高の卒業生となる。二つの高校名を持つこととなるが、野辺地西高からひばり野西高へ歴史を積み重ねる役割を担い、地域の期待に応えられるよう、一緒にこのミッションを果たしていこう」とあいさつした。

同校は1973年4月に開校し、今回が54回目の入学式となった。移転先となる五戸町では現在、旧青森県立五戸高の跡地で校舎改修などの移転に向けた準備が進んでいる。

(水野大輔)